

農業農村整備の概要

1. 北海道における主要な基盤整備
2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果
3. 多面的機能の発揮、都市・農村交流の促進



令和4年（2022年）2月16日
農政部農村振興局農村設計課

1. 北海道における主要な基盤整備

- ◆ 営農機械の作業性向上を図り、スマート農業の導入を容易にする大区画化
- ◆ 湿害を解消するとともに、高収益作物の導入に寄与する排水整備
- ◆ かんがい用水の安定供給や、農村地域の強靱化を図るための農業水利施設の整備
- ◆ 飼料の生産性や機械作業性の向上を図るための草地整備

安全・安心な
農産物の
安定生産

ほ場の大区画化

・ほ場を拡大及び整形することで、大型作業機械の作業効率を向上させる。



↑ 整備前

↓ 大区画化後



ほ場の排水整備

・排水路や暗渠排水（ほ場に管を埋設）を整備することで、降雨による湛水被害や湿害を防止する。



施工状況

整備前

暗きょ排水
整備後

農業水利施設の整備

・用水路などを整備し、作物の生育に必要な水を安定的に供給するほか、老朽化した施設の長寿命化を図る。



畑地かんがい用水の散水

農業水利施設の長寿命化対策



整備前

整備後

草地の整備

・草地の起伏修正や排水改良等を行い、良質な飼料の生産性や機械作業性を向上させる。



不陸による排水不良

整備前



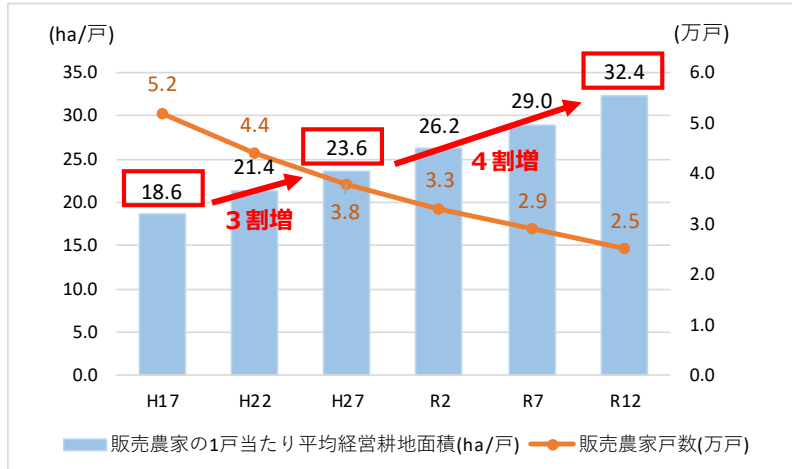
大型機械による作業性の向上

整備後

2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果(1) (ほ場の大区画化)

現状

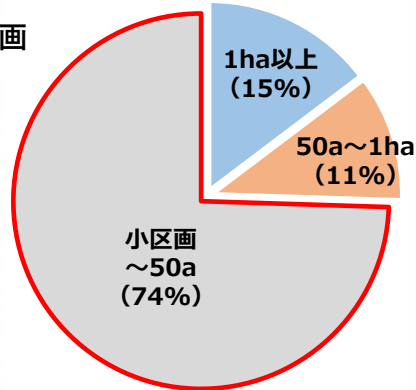
◆販売農家戸数の減少と平均経営規模の拡大



資料: 2015農林業センサスを用いた北海道農業・農村の動向予測 (H30.1道総研)

農家戸数は減少し、担い手の経営規模は拡大

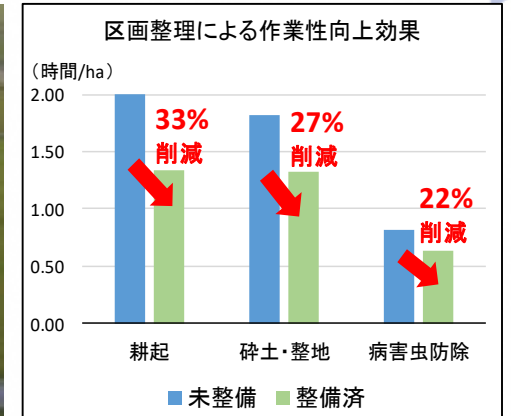
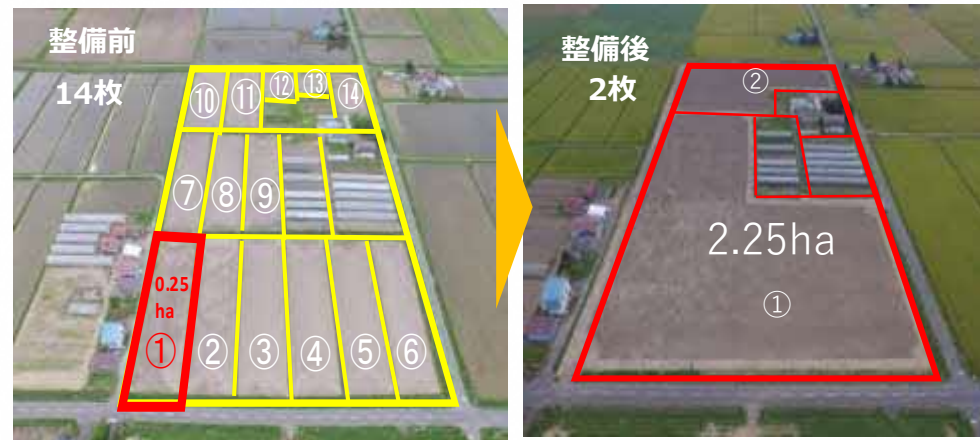
◆北海道の水田区画



資料: 農業基盤整備基礎調査など

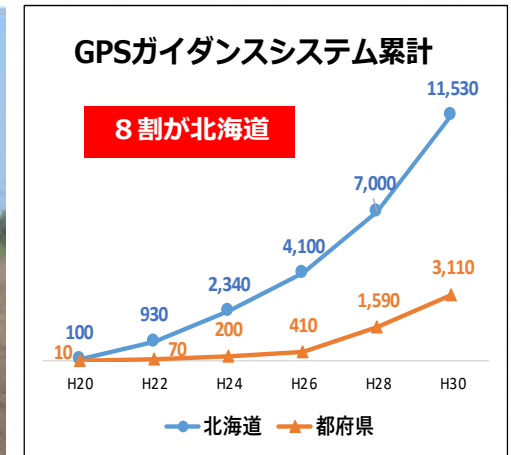
作業性の悪い50a未満の小区画ほ場は74%

対応と効果



資料: 北海道農政部「経済効果検討調査」(H14~24)

ほ場の大区画化と併せ、担い手に農地を集積することで、営農効率が大幅に向上

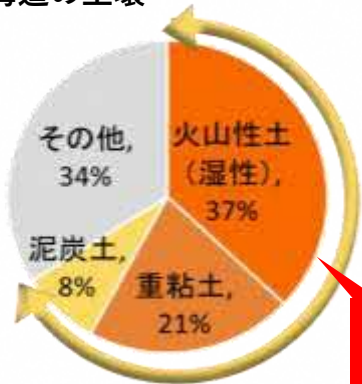


スマート農業の導入で一層の効率化が促進され、作業時間が大幅に短縮

2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果 (2) (暗渠排水)

現状

◆北海道の土壌



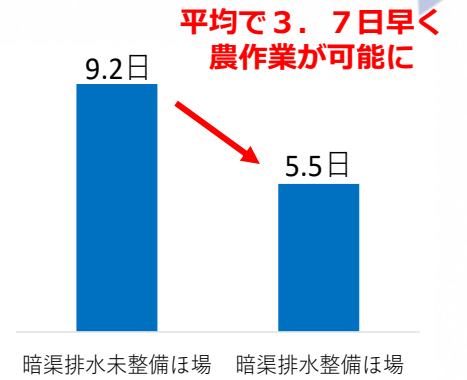
排水不良
土壌が約7割

資料：北海道農政部調べ

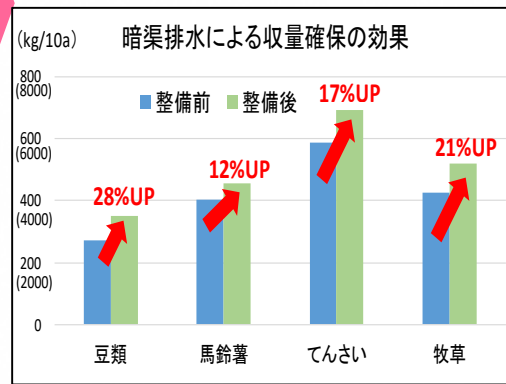
北海道は排水不良土壌が広く分布



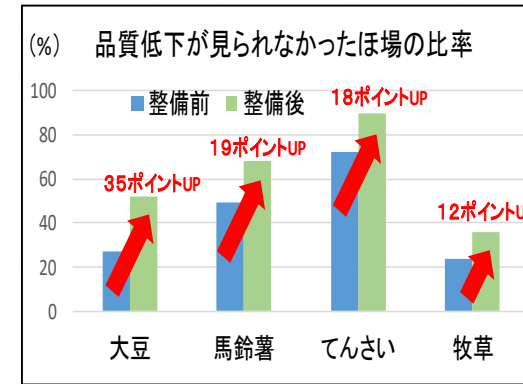
対応と効果



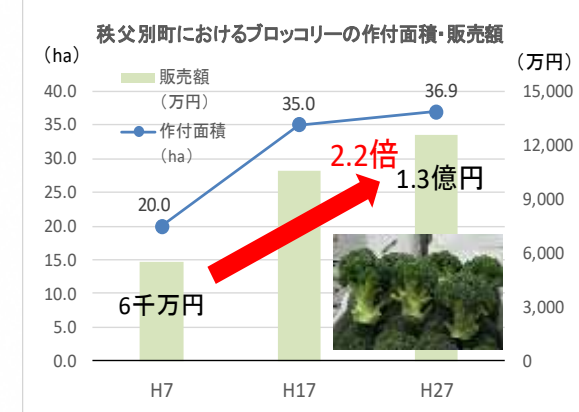
暗渠排水の整備により、ほ場の排水性が向上



資料：北海道農政部「経済効果検討調査」(H14~24)



資料：北海道農政部「基盤整備の有効性に関する調査」(H21)



未整備のほ場に比べて
収量が大幅に増加

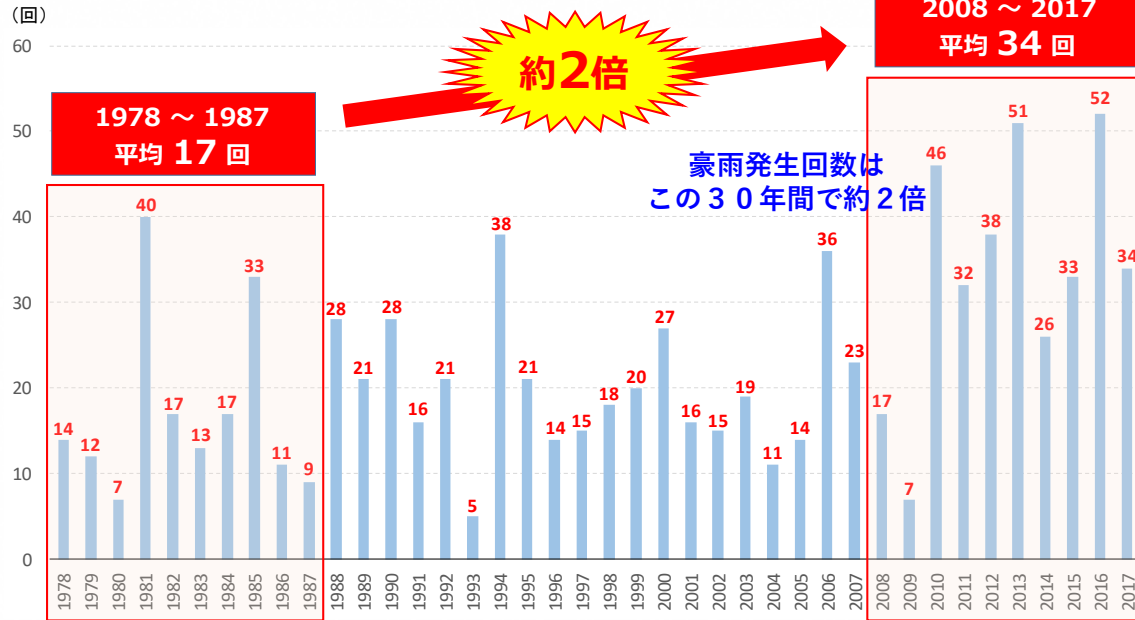
整備前より
農産物の品質が向上

水田の汎用化により、
高収益作物の作付けが拡大

2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果 (3) (農業水利施設)

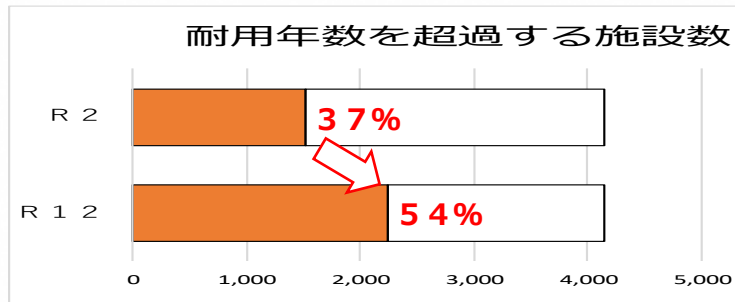
現状

◆北海道における時間当たり30mm以上の豪雨発生回数



資料：一般財団法人 日本気象協会北海道支社

近年、短時間豪雨が頻発し、排水対策が急務



耐用年数を超過する施設が増加

対応と効果



農業水利施設の長寿命化対策



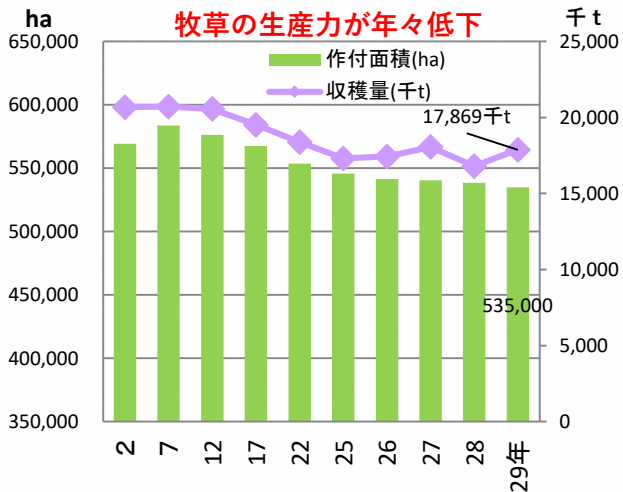
2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果(4) (草地整備)

現状

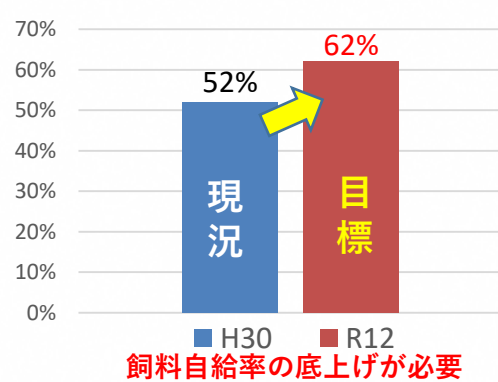


草地の排水不良や不陸により、飼料の生産性が低下

◆北海道の牧草の作付け面積と収穫量の推移



◆北海道の飼料自給率



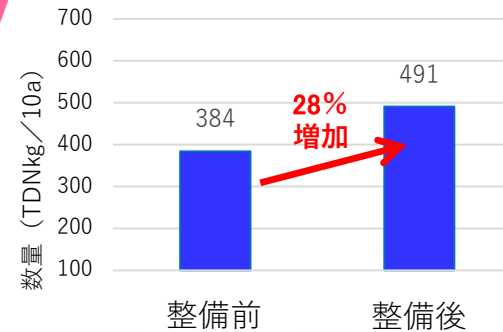
(第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画 (R3年3月))

牧草の生産力が年々低下し、依然として低い飼料自給率

対応と効果



◆事業地区における牧草の収量



資料：TPP対策実施状況調査 (H30)

飼料自給率の向上による酪農経営の安定化

栄養価の高い自給粗飼料の給与

TMRセンターの整備やコントラクターの導入により規模拡大を支援

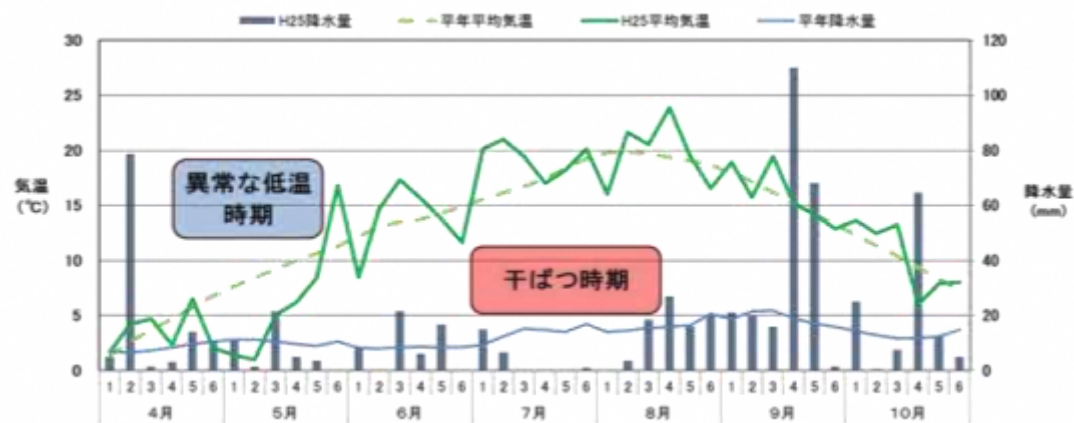


草地整備により排水改良や不陸修正を行うことで、牧草の収量や品質、大型機械の導入による作業効率の向上により、自給飼料基盤に立脚した経営の強化・安定化が図られる

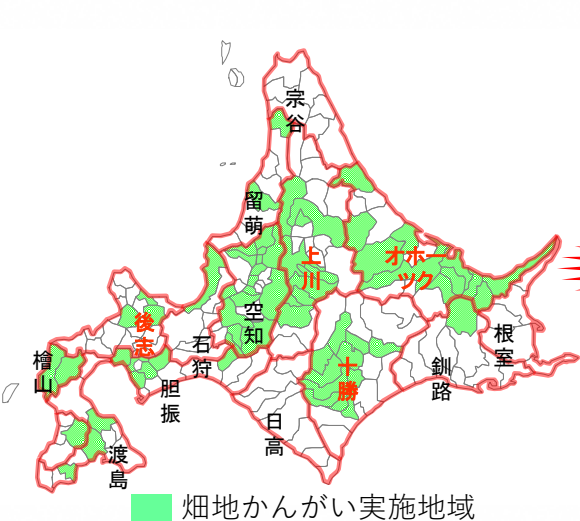
2. 北海道農業の現状と農業農村整備事業の効果(5) (畑地かんがい用水)

現状

◆干ばつの発生例 (H25 オホーツク地域)



北海道では、度々干ばつが発生

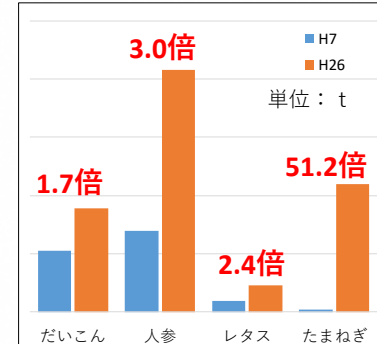


干ばつの発生に備え、畑地かんがいの整備が重要

対応と効果



◆高収益作物の生産拡大(幕別町)



畑地かんがい整備により、野菜などの高収益作物の生産が拡大

◆畑地かんがい未整備ほ場



◆畑地かんがい整備済ほ場



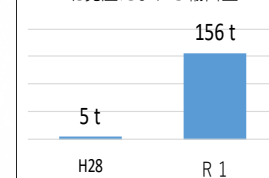
← 低 規 格 高 →

	規格外・S	M	L	L大	2L	合計	総重量
未整備	42	60	26	5	0	133	4.9
整備済	7	11	26	53	38	135	9.3

t/10a

整備済みほ場では、未整備ほ場と比べて収量が約2倍、上位規格が7割に増え、収量及び品質が向上

北見産たまねぎ輸出量



海外へ販路拡大

3. 多面的機能の発揮、都市・農村交流の促進

- ◆多面的機能の発揮、担い手の規模拡大が阻害される懸念
 - ～ 農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動が困難化
担い手への水路、農道等の地域資源の維持管理の負担が増大
- ◆農業・農村の役割に対する理解の促進と地域活性化の取組
 - ～ 農村ツーリズムを通じた都市・農村交流の促進及び関係人口の裾野拡大



道民の理解に支えられる
農業・農村の確立

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮に向けた取組

■多面的機能支払交付金

- 地域共同で行う多面的機能を支える活動や地域資源の質的向上を図る活動を支援
〔R2取組市町村数：152〕

【農地維持支払】

- ・農地法面の草刈り、水路の泥上げ等の地域資源の基礎的保全活動等の多面的機能を支える共同活動を支援

【資源向上支払】

- ・水路等の軽微な補修、農村環境保全活動など地域資源の質的向上を図る共同活動や施設の長寿命化のための活動を支援

(単位：千ha)

多面的機能支払の取組面積	H30	R1	R2
	771	768	776



法面の草刈り



水路の目地補修

■中山間地域等直接支払交付金

- 中山間地域等の条件不利地域における傾斜農用地等での農業生産活動の継続を支援
〔R2取組市町村数：98〕

【農業生産活動等を継続するための活動】

- ・農業生産活動等
〔耕作放棄の発生防止活動
水路・農道等の管理活動 など〕
- ・多面的機能を増進する活動
(周辺林地の管理、景観作物の作付け など)

【体制整備のための前向きな活動】

- ・「集落戦略」の作成

(単位：千ha)

中山間地域等直接支払の取組面積	H30	R1	R2
	327	328	315



協定農用地



集会施設の景観美化活動

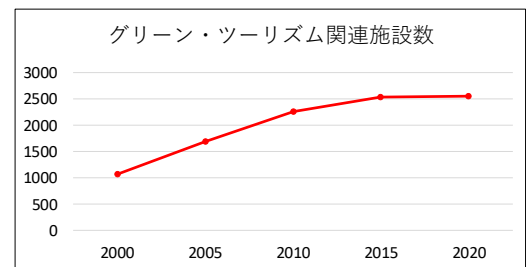
農村ツーリズム（農たび・北海道）

- 農山漁村の豊かな自然や食、歴史・文化、生活体験などを観光資源として活かし、農業や観光業など多様な主体が地域ぐるみで農泊（注）や教育旅行に取り組む「農村ツーリズム（農たび・北海道）」を推進

（注）農泊・・・農山漁村地域に宿泊し、滞在中に地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと

農泊推進対策 採択地区数

	北海道
H30年度まで	29
R1年度	13
R2年度	2
計	44



インバウンドへの対応



教育旅行（酪農体験）